

「三重発！ボラパック」 危機管理事例集

この事例集は、「三重発！ボラパック」各便の行動中に発生する可能性のある危機事例および対応を上げたものです。これらの状況になった時は、他に報告・連絡などが必要になりますので、速やかに対応してください。

※MVSC=みえ災害ボランティア支援センター (059-226-6916) (090-3425-****)

2011/8/21現在

危機事例	対応
バスの休憩が終わっても戻ってこない人がいる。	運転手さんと何分まで待つかを相談し、メンバーが2人一組で周辺を搜索。それでも現れない場合は、MVSCに連絡し、指示を受ける。
バスが時刻どおりに現地に着けない。	現地スタッフ (090-3958-3036) へ延着理由と (可能ならば) 到着見通し時刻を連絡する。 →現地へ到着したら、MVSCへ連絡する。
行程中に事故が起きたり、ケガ人 (軽微なものを除く) が出たら。	まず、5W1H (いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ) の把握に努める。リーダーはその情報を聞いた5分以内にMVSCへ、その時点で判っている限りの第1報 (すべて揃っていなくても、一部未確認でも良い) を電話で連絡し、以後は情報を取り次第、随時連絡する。 ボランティア保険金支払いの対象となる可能性があるため、「ボランティア活動保険」 (ピンクのリーフレット) の裏面「事故が起こったら」を読み、情報収集などの処理を進める。
バス移動中に病人が出たら。	バスの中=急病ならバス運転手に相談し即断 (現地到着の遅れはやむをえない) する。対処方針を決定し、着手してからMVSCへ現況・対処方針・以後の行動予定を連絡する。
現地で病人が出たら。	【現地に到着したら早目に確認】現地の社協職員に、対処方法と開業中の医療機関を確認しておく。また、被災地に応援で来ている医療機関の中には「被災者しか診察しない」という組織も存在するため要注意。なお、自己紹介などでメンバーの能力・特技を把握して置くと良い。 【病人が発生したら】 基本的には医療機関での受診をオススメする。苛酷な活動環境なので、絶対に無理はさせず、静かな場所で休息を取らせる。落ち着いたら、MVSCへ状況連絡をする。
活動中に事故が起きたり、ケガ人が出たら。	まず、5W1H (いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ) の把握に努める。リーダーはその情報をすぐに現地ボラセンに連絡し、対処方法の確認をする。そして、MVSCにもできる限りの第1報 (すべて揃っていなくても、一部未確認でも良い) を電話で連絡し、以後は情報を取り次第、随時連絡する。 ボランティア保険金支払いの対象となる可能性があるため、「ボランティア活動保険」 (ピンクのリーフレット) の裏面「事故が起こったら」を読み、情報収集などの処理を進める。
急に三重県へ帰る必要が生じたら。	公共交通機関を乗り次いで当日中に到着する。 詳しくは閲覧用ファイルを参照。
配車班のメンバーが車を傷つけたりパンクさせたりしたら。	まず、5W1H (いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ) の把握に努める。配車班はリーダーと現地ボラセンスタッフに状況を報告し、対処方法の確認をする。その後、MVSCへ状況連絡をする。(傷つけた車の写真があれば、メールでMVSC (center@mvs.jp) へ送信)
余震による津波警報または津波注意報が発令されたら。	【現地ボラセンにいる場合】ボラセンスタッフまたはリーダーの指示に従い高台の船越キャンプ場に避難する。リーダーはメンバー全員の安否を確認し、MVSCへ状況連絡をする。 【活動中場合】①活動前に現場班長は避難経路の確認を行う。 ②津波警報 (または注意報) が発令されたら、まず事前に確認した避難場所へ避難する。現場班長は活動メンバー全員の安否を確認し、リーダー及び現地ボラセンに状況連絡しこの後の対応を確認。③リーダーはメンバー全員の安否を確認し、MVSCへ状況連絡をする。④後の行動は現地ボラセンの指示に従い、状況が変化した場合はMVSCへ連絡をする。

※ノウハウを蓄積させるため、行動中に実例が生じたら以下に加筆し帰県後に事務局へ提出してください。